



弥富に住んでみたい!住み続けたい!を 考えるオンラインワークショップを開催しました!

地方創生を推進する本市の計画である「第2期弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたり、市の地域課題の掘り起こしとその課題解決に向けた取り組むべき事業のアイデア・提案について検討し、計画に反映することを目的として、全3回にわたる市民ワークショップをオンラインで開催しました。



参加者の皆さん

「YATOMI」の
Yで
ポーズ!

提案された取り組み

グループ	取り組みのタイトル	取組内容
まち	エンジョイアドベンチャー in やとみ	防災を前面に打ち出さない防災イベントを実施する。 (災害時の体験ができるサバイバルゲームなど)
ひと	シビックプライドアップ弥富「やるじゃん!弥富!」	地域と一緒に弥富の魅力を再認識でき、世代間交流ができるようなイベントを開催する。
	「あなたに寄り添うまち・弥富」誰一人取り残さない弥富	市外へ向けて弥富の魅力を情報発信する。
しごと	「林さん、金魚養殖をはじめるとってよ」プロジェクト ～仕事の悩みを解決するためのカフェ運営～	弥富市の仕事に関わる悩みを持つ人が相談できる スペース(カフェ)を作り、そのスタッフは市民と協力 して課題解決策を検討する。

提案された取組は、弥富市の事業として実施の検討を行っていきます!詳細については、市ホームページをご覧ください。

問 市役所企画政策課(内線 454)

やとみ巨大金魚 イルミネーション開催中です

近鉄弥富駅の冬を特産の金魚の形をしたイルミネーションが可愛く彩っています。昨年に引き続き赤やオレンジの金魚に加えて、「青い巨大デメキン」を新たに作成しました。青色は、医療従事者支援のカラーとされ、世界各地でライトアップされています。イルミネーションは、十四山東部小学校、十四山西部小学校、十四山中学校の児童・生徒たちの協力により作られたペットボトルイルミネーションです。

点灯期間

1月31日(日)まで
毎日午後5時～10時

点灯場所

近鉄弥富駅南口
ロータリー隣
ポケットパーク



問 市観光協会【市役所商工観光課(内線 244)】



戦争の恐ろしさを知る

弥富北中学校 稲垣 結菜

【原爆による被害】

1945年8月6日午前8時15分。広島に原爆が投下され、約14万人もの人が亡くなりました。原爆は「リトルボーイ」と呼ばれ、爆心地周辺の地表面の温度は3000～4000度に達し、約1.2キロ以内にいた人は、皮膚が焼け内臓にまで損傷を受けました。また、約3.5キロ離れた地点にいた人もひどい火傷を負いました。約1キロ以内にいた人の多くが数日のうちに亡くなりました。また、無傷と思われていた人の中にも、被爆後、月日が経過してから発病し、亡くなった人がたくさんいました。

さらに、地上に残った放射線の影響により、直接被爆していない人が発病することもありました。医者や看護師など、被爆者の治療や看護をした人が放射線を受けてしまい、被爆した人と同じように発病してしまう「二次被爆」も起きたそうです。原爆の投下後、広島には放射性物質を含んだ黒い雨が降りました。

【平和への思い】

平和記念公園には戦争の悲惨さを後世に伝え、平和を願う物がいくつも残されています。「平和の鐘」は、平和を願うシンボルとされており、世界地図が描かれています。その世界地図には国境がありません。さらに、「平和の鐘」は他の鐘と比べて分厚いという特徴があります。その理由は、音が共鳴しないようにするためです。「世界で戦争が起きたとき、一緒になって戦争を始めないように」という思いが込められているそうです。また、「平和の時計塔」は、まっすぐではなく途中でねじれています。このねじれている部分は戦争のあった「時代」を表しています。「これからもずっと戦争が起こらないでほしい」という思いが込められています。



【広島研修で学んだこと】

この広島研修で、戦争・原爆の恐ろしさ、そして平和を願う人々の思いを知ることができました。資料館で見た遺品や写真の数々は強く印象に残り、戦争を体験していない私にもその悲惨さがよく伝わってきました。「だんだんと戦争を体験している人が減っていているから、あなたたちのような若者が、これからも戦争が起こらないようにして欲しい」というボランティアガイドさんの言葉が今でも心に残っています。私はこの広島研修を通じて、「戦争のことを知らない世代に語り継ぎ、みんなが平和を願う気持ちをつないでいくことが大切なのではないか」と考えました。世界では、まだまだいろいろな場所で戦争や紛争が起きています。争いは悲しみしか生み出しません。私たちだけの力で争いをなくすのはとても難しいことだと思いますが、自分にできることをしっかりと考え、少しでも世界が平和になるように努力していこうと思います。



原爆の怖さ ～後世に伝えよう～

弥富北中学校 伊藤 真緒

【千羽鶴が伝えたいこと】

広島研修の事前学習を進めていく中で、2歳の時に被爆をした佐々木貞子さんについて知りました。佐々木さんが入院し、後日お見舞いに訪れた同級生からもらった折り鶴をきっかけに、佐々木さんも「病気を治したい」という願いを込めて折り鶴を折るようになったそうです。

そのエピソードをもとに、弥富北中学校でも平和への願いを込めて折り鶴アートを作成しました。折り鶴アートには「平和」を意味する「peace」という言葉をデザインし、世界平和や核兵器の根絶への願いを込めました。



【原爆の恐ろしさと被害】

広島に投下された「リトルボーイ」には、ウラン235が使用されていました。爆発のときには強烈な熱線の放出と急激な空気膨張による爆風で、あらゆるものを破壊してしまいました。当時の広島に住んでいた約30万人のうち、原爆によって約14万人の人が亡くなりました。熱線・爆風・放射線が大きな被害を与えた要因でした。放射線の被害は、「初期放射線による被害」、「残留放射線による被害」、「内部被曝による被害」に分けられ、佐々木貞子さんも内部被曝による白血病で亡くなりました。



【感想】

今回の広島研修に向けて、たくさんの事前学習を行いました。しかし、現地に行って改めて戦争や原爆の恐ろしさを実感することができました。原爆資料館には、途中で目を覆いたくなるような資料もたくさんありました。その中でも、「死の斑点」という写真を見たとき、とても衝撃を受けました。資料館を出た後、「こんなに恐ろしく悲惨な出来事は絶対に忘れてはいけない」と強く思いました。戦争は人の命を奪うだけでなく、そこに生きる全ての人の人生を狂わせてしまうものだと感じました。私は全ての国が戦争を起こさない平和な世界をつくるよう、これからも平和を願い続けたいと思います。私たちの世代が戦争の恐ろしさや平和の尊さを後世に語り継げるよう、私自身これからも学び続けていきたいと思っています。